

こどもを『真ん中に』

学校長 栗栖 光美

「瀬小職員バンド、始めます!」

ギター、ドラム、木琴などのさまざまな楽器の演奏に合わせ、瀬ヶ崎小学校職員有志による歌の伴奏とともに、夏の風物詩である「六浦東地区盆踊り大会」が開幕しました。

暗闇の中で浮かぶ提灯の明かりの下で、世代を超えて人々が一緒に踊る姿は、まさに幻想的でした。大人たちの踊りを見様見真似で踊っていたこどもたちが、次第に自信をもって掛け声を挙げながら踊り、場を盛り上げていく姿に、文化がこうして継承されていくのだと深く感じました。

多様な価値観が広がる現代社会において、地域行事が縮小される中、今なお地域を挙げて盛大に開催されていることは、この地域の大きな強みです。人とのつながりを大切に、みんなで地域を守り、盛り上げていこうとする思い、そして次の世代へつないでいこうとする意志があるからこそ実現できることだと感じています。

夏休み中の職員会議では、10月に開催されるスポーツフェスティバルについて話し合いが行われました。限られた時間の中で、こどもたちの活躍の場面を最大限に発揮するために、何を変えていくのか。そして、どのような新しい形を創り出していくのか。

その議論を進める上で大切なのは、私たちの主軸である「こどもを主役に据え、『こどもにとってより良い活動とは何か』を考える」という共通認識を“土台”として共有することです。

毎年繰り返される学校行事や教育活動の在り方も変わりつつあります。限られた時間と人員の中で、こどもたちの健やかな成長を支えていくためには、学校もまた、これまでの考え方にとらわれず、発想を転換していくことが求められています。しかし、どれほど環境が変化しても、こどもを真ん中にして考えるという“揺るぎない土台”を、私たち教職員は決して忘れてはいけないと改めて感じています。

長い夏休みの間、こどもたちはどのようなことに挑戦し、どのような楽しい体験をしたのでしょうか。静かだった学校に、再びこどもたちの元気な声が戻ってきたことを、心からうれしく思います。

